

平成29年度第2回放送番組審議会 議事録

会 議 名	平成29年度 第2回 放送番組審議会
日 時	平成29年11月29日(水) 18:00 ～ 19:10
場 所	竹原商工会議所 小会議室
出 席 者	委 員 会 : 宮原委員長・森木副委員長・有田委員・北丸委員・國兼委員 豊政委員・用田委員・和久利委員 タ ネット : 近藤取締役・中野取締役・吉原制作部統括責任者 《撮影 住谷》 事 務 局 : 岡取締役・三國 以上 14名

内 容

冒頭、近藤取締役より挨拶があった。
宮原委員長の挨拶に続いて議事へ進行した。

議 事

1) 前回の審議会での意見に対する経過報告

制作部統括責任者 吉原および事務局 岡より報告をした。

審議テーマ 『うさぎ気分で満喫♪満腹！～1泊2日竹原うさぎ旅～』

《審議番組についての意見》

- ・ 番組を見る限り、移動手段がすべて歩いて行ける位置関係と感じてしまう。実際の移動手段や所要時間(距離)などが分かるように工夫が必要。
- ・ 紹介の順番がバラバラの為、土地勘のない市外・県外の方には位置関係が分かりにくいと感じた。
- ・ 食べ物だけではないお店の魅力(創業何年など)、テロップをうまく活用してみたらよいと思う。
⇒ その後の通常番組に活用し、移動距離や時間、徒歩で何分などの説明を取入れている。
 今後は、グーグルアース、マップなども活用し、わかりやすい地図の表記をしたい。
 また、距離や時間なども加えてイメージしやすくする。
- ・ ナレーションの音が聞き取りにくいと感じた。特に高齢者にとってはもう少し低音の音が聞きやすいのでは？
⇒ ターゲット年齢層に合わせ、改善を心掛けている。外部からの起用も考えている。
- ・ 若い女性向けには興味のある企画だと思うが、中高年(特に後期高齢者)の男性には興味がない。
⇒ 今回の番組は女性と若年層がターゲットだった。次回の旅番組制作時には意見を活かしたい。
 まだ企画化できていないが、歴史物やものづくりなど考案中。

《その他の意見》

- ・ 市議会の再放送について、みんなが見れる時間内に放送してほしい。
⇒ 22時放送から21時放送へ変更した。
 土日にまとめて放送して欲しいという意見もあるが、放送契約の問題もあり、今は難しい。
- ・ 放送番組基準について、障害者差別解消法の施行により障害者に配慮した表現に努める旨の項目を追記していただきたい。
⇒ 当社が所属している日本ケーブルテレビ連盟の放送基準に準じたものである。
 連盟も意識はしており、字幕放送を標準化できないか、民放連と連盟が総務省を含め協議中。
 (データ放送を有効に使ったり、サブチャンネルを使えば字幕が出るなど。)
 現在のところは改訂予定は無いが、将来的には進んでゆくような準備はしているとのこと。

- ・ 見たい番組がいつ放送されるかがわからないという声が多く聞かれる。
⇒ 毎月一回番組表を発行し各公民館と図書館に置かせてもらっている。
また、Facebookにて出来るだけ細かく番組情報が伝えられるようにと番組案内の発信をしている。そのほかに市の広報紙にも掲載できないか竹原市と交渉中。

現在、年末までを目途に視聴者の方々にアンケート調査を行っている。

どういった年代の方が、どういった番組に興味をもっておられて、どういった時間だったら見やすいとか少しでも多くの方々にコミchを見てもらえるようにと行っている。

皆さんのニーズに応えることは難しいが、調査結果を今後の番組づくりにつなげていきたい。

2) 審議テーマ 生ニュース番組(10月31日スタート)

『タネットニュースLIVE』(11月16日、21日放送分)

制作部統括責任者 吉原より番組企画の説明後、11月16日放送分のVTRを放映。

その後、審議委員より以下の意見や感想が出された。

- ・ 竹工芸作品展の緑色の背景色により字幕が見えにくいと感じた。
- ・ ニュース内容はこれだけなのか、まだ他にもあるのではないかと、もう少し身近なニュースも知りたい。
- ・ アナウンサーの話すスピードが速過ぎて高齢者にとっては聞き取りにくい。
利用者で70代以上が45.3%であり、話すスピードが少し速いのではないかと。
- ・ 二人目のアナウンサーの方が大分上手になった。
- ・ どんな人がどんな表現をして話すのかという期待感があるので、アナウンサーを増やしてはどうか。
- ・ 市内の交通ニュース、事故があれば名前は出さなくても注意喚起の為にも取入れてほしい。
- ・ 他の地区でどういう人がどんな活躍をしているのか知りたい。
- ・ 税務署関連の画面の切替わりが早すぎて見づらかった。
- ・ 審議会の議題でニュース番組のコメントは難しい。
- ・ 聖恵文化祭の告知について場所の案内が無かった。
原理原則でいうと、『いつ』、『どこで』、『なにが』あるのか、そこを押さえるというのがポイントである。
- ・ 内容的にタネットライブラリーとの差別化が無いような気がする。
- ・ あまりにも再放送をするとLIVEの良さが伝わらなくなるのではないかと。
- ・ 身近な人や地域の行事の放送は見るが、それ以外の放送も見るという人が少ない。
- ・ 企画的には非常に良いと思う。出来るだけたくさん情報を載せることにより関心が高まると思う。
- ・ ニュースタイトルの『LIVE』という表現が『生』というほうがインパクトが皆さんに伝わるのではないかと。
- ・ ひとつの番組内で同じ画面をずっと流したら嫌になるという欠点もある。
画面切替の早さの兼ね合いが必要である。
- ・ コメントもいろいろあるが『その人独自の意見』がでるようなものがほしい。
- ・ 仁賀のニジマス放流は目的があると思うが、放送内では、放流だけかなという雰囲気しか読み取れなかった。
- ・ 地域包括ケアシステムの構築というのが全国的に取り組みを進められているところである。
市民の皆さんが、どこに連絡をすれば福祉と繋がれるのかといったものがあれば良いと思う。
- ・ アンチクライマックス法、クライマックス法の勉強をしながら番組の構成をしていただくと画面の切替わりのことだけではなく、まず何が伝えたいコンテンツなのかというものがしっかりと伝わるようになるのではないかと感じた。

3) タネットに対するご意見要望、その他

- ・ ニュース番組の後に国道とかうさがぎが流れているがしつこいのではないか。
- ・ かぐやパンダの企画提案をしたい。
竹原市の中にもいろんな達人がいるので、かぐやパンダの着ぐるみを着て達人が何かをやることにより、子どもが『何か習い事とかを始めてみようか』につながったり、竹原の中にもこういう上手い人があるんだなあと遊びを通して伝わるのではないかと思う。
そして、そもそもかぐやパンダは福祉のキャラクターであるというところに繋がると嬉しい。
- ・ タネットの視聴率が知りたい。
⇒ 機械的な測定は難しい為、戸別訪問でのアンケート調査を行っている。
この結果により年代と興味、見る時間帯等を分析して、番組づくりを考えている最中である。
- ・ 加入率がダントツ高い地域があるが、これには理由があったと思う。
スタートして7年、最初はもっと低い数字で徐々に時系列的に流れてきていると思う。
もっとタネットを見てもらおうと思うと、時系列的な分析をすることにより、少ないところの数字が見えてくるので、そこに対してどういう対応をすれば良いのかという方法論が見えてくるのではないか。
⇒ 加入率が高いところは、難視聴地域である。低いところは、アンテナで視聴できる地域と既に共聴組合で視聴をしている地域であり、なかなかタネットへ加入をしてもらえない。
特に、NHK共聴は優遇されており難しい。
その対策として、よりよい番組づくりをし、タネットを見たいから加入をするという流れを作り、加入率を上げてきた。まだまだ伸びしろのある地域をもっと攻めなくてははいけない。
その対策としてよりよい番組づくりをし、ロコミにて加入者を増やしたい。
また、情報通信基盤整備事業のひとつである防災の取り組みとして、各戸へ告知端末を設置すれば情報が流れるようになっているが、竹原市が本気にならない。
(広島の水害があったが、いくら外でマイク放送をしても家の中にいたら聞こえにくい。)
また、防波堤、災害、交通事故、火災等の定点カメラ設置も継続して交渉中である。
- ・ 意見として検討できる部分と行政を絡ませて解決しなければならない問題がある。
7年ともなると機械等も劣化してくると思われるので、いざこれからという時に支障をきたさないようにしなくてはならない。
いかに行政を巻き込むか、また、タネットから行政に情報を提供することも大事だと思う。
⇒ 呉線とか船、飛行機の情報は、タネット独自では放送できない。
行政という信頼おける情報源からの一元管理の中で放送をしたい為、根気強く交渉をしている。
- ・ 審議会の年間開催日を予め決めておいたらどうか。
⇒ 今後は、年間開催月を決め、開催の一ヶ月前を目途に案内を出す方向で事務局にて調整する。

以上